



1ページと同一個体。

安芸市の長野博光さんによれば、四万十川産の全長137cm、体重30kgが最大記録とのことですが、みごとな体形もそうですが、何と言っても私たちが惹きつけるのは、古武士風の容貌とルビー色の眼でしょう。この眼の色は、実は血液の色なのです。血の色が透けてみえるのです。

2004年6月4日の高知新聞で紹介しましたが、浦戸湾は奈半利川と並ぶアカメの最大の生息地と言えそうです。高知市の蒲原速實さんは若い頃、投網でアカメを採った経験が豊富です。投網では、浦戸湾の方が四万十川より多く採れたとのこと。蒲原さんからもらったアカメ用の投網は熊でも捕れそうです。私の力量では1/10も開かないでしょう。

アカメの幼稚魚は内湾のアマモ場で生活します。アマモの葉に付いているさまざまな小動物を餌としているのです。すなわち、アカメの存続には内湾のアマモ場が決定的に重要なのです。1950年以前の浦戸湾には現在の数十から100倍のアカメがいとされています。生活史がまだ未解明のこの巨大魚の保全には、アマモ場の造成と幼稚魚の乱獲防止が急務です。それにしても、浦戸湾の自然にはただ驚くばかりです。



川底を埋め尽くすアマモの群落。  
2004年7月3日大方町鵜瀬川。

2005年1月5日発行 発行者：町田吉彦（理学博士，高知大学理学部教授，  
四国自然史科学研究センターセンター長）

本書の内容の無断複製を禁止します。複製ならびに内容についての問い合わせはFAX 088-844-8310（町田研究室直通）でお願いします。